



80歳は何なのか

府国保連合会囑託

亀井 励

今年の年賀状のうち、私のやっているシベリア遺族会の役員から来たものに「役員を辞任させてほしい。高齢（80歳）につき」と書かれていました。

私たちの会は、シベリア抑留中に亡くなった人たちの遺族を中心に構成しています。抑留が始まってから60年以上を経過した現在では、死没者の妻なら8、90歳代、子供でも6、70歳代になっています。高齢だけを理由に辞任を認めたら会は成り立たないのですが、本人の意向はなるべく尊重することになっています。今回も、役員改選の来春までは続投、を条件に辞任を認めることにしました。

高齢化が進み、週日の日中に街中に出ると、まるで高齢者世界に住んでいるような状況になっている現在でも、80歳という年齢は、生き方について何かを考える節目になっているのでしょうか。そういえば、私が年賀状を交換している人たちの中にも、活動は続けながらも「80歳になったので、来年から年賀状を失礼する」と言ってきた人が何人かいます。80歳を目途にすべての役職辞任を図ってきた人もいます。

たしかに一般的に言って、体の状況を考えても60歳代と70歳代ではかなり違ってきます。80歳になればもっと変わるでしょう。生死をかけた大病に襲われるかもしれません。大きな病気はしなくても、加齢現象といわれるような不具合が体の各部分に現れてきます。精神年齢と肉体年齢のアンバランスがひどくなり、思うようには体が動いてくれません。それが日常茶飯事になると、精神的にも落ち込んできて、やる気をなくしがちです。

私自身、かねてから生きる目標は80歳と言ってきました。目標到達までまだ5年以上あるので、それまで生きられるかどうか分かりません。無事に生きていれば、できるだけ生臭いしがらみを抜けて、気ままな余生にしたいと考えています。やはり80歳は大きな節目なののでしょうか。